

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400041		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム湖西		
所在地	静岡県湖西市鷺津2522-33		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町村受理日	平成30年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2017_022_kani=true&lievosvoCd=2298400041-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から7年を経過し、定着した職員により安定したホーム運営が出来ております。入居者様の希望に沿って出掛けたい時などにすぐに反応できるようになってきています。畑作業や普段のお手伝いを通じ出来る限り体を動かして頂く事で昨年度は骨折による入院者は一人もいらずでした。ホームのお祭りへの参加者も年々増えており地域からの認識もすすんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

湖西高校のボート小屋の南に位置し、浜名湖を一望する見晴らしの良い場所に在ります。普段から畑仕事等で身体を動かして、昨年は骨折事故も無く、インフルエンザをはじめとする感染症の罹患はゼロでした。恒例行事である秋祭りは毎年地域から100名余の集客があり、また湖西市内では「初」となる共用デイ始まり、理念である「地域の人々との触れ合い～」に通いの利用者との関わりが重なるものとして、相乗効果が大いに期待されます。一三だよりに利用者の暮らしの機微や介護の詳細を入れていったところ家族から「よくなって助かる」との声が届き、「ホーム学童化計画」も徐々に進み、現状に満足しないチャレンジに溢れる

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人々との触れ合いを大切にします。との文言が運営理念に掲げてあり、スタッフ一同が地域の中でのホームのあり方を会議等で確認し、行事などにおいて実践している。	開設から7年を経て、事業所名の浸透は進んでいると自負しているものの、「認知症の症状への理解」「事業所が大切にしていること」といった事柄への認識は薄いとして、引き続き努力が必要であると事業所では考えています。	認知症サポーター養成講座、タクティール講習、ふまねっと大会と、事業所の得意分野を活かしたアピール機会が増えていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会、町内会には事業所として所属しており、自治会や町内会の行事には参加させて頂いている。また、回覧板などをホームの行事にも利用させて頂いている。	湖西高校の文化祭訪問は現在も続いており、事業所でも職業体験を受け入れ、相互に助けたり助けられたりの関係が構築されています。また新居に在る特別支援学校からは職業体験並びに就労相談が持ち込まれ、これまでの周知活動が此処にも花開いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	湖西市内の民生委員が何度か見学に来られ、認知症介護の実情などをホームより発信し、各民生委員が担当地域の方々へ伝えて下さっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会や町内からは多くの協力を得ることが出来ています。運営推進会議の場において協力をお願いしています。	前自治会長、現自治会長、次にバトンが渡される次期自治会長3名が自治会の事務所に常駐するという大変有難い地区の態勢に因り、運営推進会議も定期開催とともに内容も充実さを増しています。また出席の民生委員を通じて、委員の見学会も受け入れています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への行政の参加は毎回です。行政担当者とは共用デいの相談などで密に連絡をとれています。	今月から土曜日のみ共用デイが始まります。湖西市内では当事業所が「初」ということもあり、申請段階でも市とは何回もやり取りがおこなわれていて、今後も相談や指導が続きます。また毎月介護相談員の来所があり、地域包括支援センターからの利用紹介も途切れることがありません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全社を挙げての取り組みでもありますが、当ホームにても研修による知識の蓄積を基礎に実践として拘束ゼロを実現しています。	「椅子に深く座ると自身で立ち上がりが難しくなる」といった小さなことにも着目し、落ち着かない利用者との関わりは管理者が「やってみせ」、「自分の親ならどうする？」と問いかけて、具体的かつ意識に向けた指導がおこなわれていて、安心感を覚えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても全社的取組であり、チェック項目にしたがい定期的にチェック・注意喚起を行っている。現場にて各ユニットのリーダーがスタッフ個々のチェックを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者様も数人おり、後見人などから実際の制度や手続きを学ぶことができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や改定の案内などは、必ず管理者が時間をかけて読み合わせを行ないながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内のご家族様アンケート、介護相談員の評価、運営推進会議での意見などにて頂いた要望などをフィードバックし改善や改良を行なっている。	「利用料が年金では足りない」との意見には「見合う介護をしよう」と職員間で気持ちを一つにした例をはじめ、届いた声には向き合っています。また「一三三だより」にケアや状態の詳細を記載するようになり、面会時に「家族から質問を受けることが増えた」という嬉しい出来事もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社にてスタッフアンケートが行われており、その結果は管理者に知らされ改善策の提起を求められている。	月担当の職員と協力してイベントを準備する「イベント」、花や野菜を育てる「環境」、防災の「危機管理」の委員会があり、職員の側面的育成や活性化に役立っています。また「記録が難しい…」との独り言のような発言にも管理者が応えており、フォローアップが行き渡っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスや段位制度等が毎年充実してきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のブログを通じての研修の配信や書面による資料が定期的に配られる。また、資格支援制度も毎年充実してきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖西市のグループホーム管理者が独自に集まり、地域密着部会を開催し情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人様の面接ではアセスメントを取ると共に入居後の希望をしっかりと伺い、ケアプランへと反映させている。必要な場合は何度も居宅や病院などを訪問している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様と同様に見学の段階から、入居後の生活の様子を説明し、希望を聞き入れることはもちろんの事、協力頂きたいことは最初から要請するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護度や医療依存度の高低に囚われることなくその後のご本人様の人生に最適な選択を話し合う様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の念や労いの心は残しつつ、お客さんの立場に留めることなく、生活を共にしている。畑作業や草取りの外仕事、洗濯や食事の準備、後片付けを一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出もご本人様の気持ちを踏まえつつ、職員のみではなく、ご家族にご負担頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短歌を趣味とされる入居者様がホームに月に一度程お友達を呼ばれ、ホーム相談室にて短歌の会を行なっています。墓参りなども定期的にお連れしています。	近隣からの入居の人はがりのため、散歩では共通の話材で盛り上がりやすい。また浴室にかかる暖簾は、裁縫が得意な利用者が「ゆ」の模様が入った手ぬぐいで作ったものです。孫の結婚式に横浜まで出かけたり、短歌の仲間が毎月3～4名訪れ、短歌の会でのひと時を愉しむ人もいます	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いなどは役割分担が入居者様の中で出来ており、その関係を壊さない様に職員は陰ながらのサポートを心がけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には必ず、その後の進路を確保し状況よっての対処をアドバイスしている。また、退去して数年経過した方の様子も定期的に訪問して伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員本位でないケアを行なえるよう職員会議やユニットの会議では話し合っている。	「状況確認・発見シート(アセスメント・シート)」と名づけたA3の用紙には「好きな話」「大切な人」「思い出の場所」がエピソードとともに満載です。普段から1対1となる機会を意図としてつくっていますが、特に入居間もない時期は居室で会話をもって信頼関係をつくるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのセンター方式の提供や入居後からのご本人や家族の話をフェイスシート(デビット君)に記入し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	やれることは自身でという事を基本に考え、支援を行っており、現状の個々の能力は把握しやすい状況にある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現状の把握と状態の家族との共有には気を配り、見当違いの支援にならない様になっている。	計画作成担当者、介護支援専門員が適正に配置され、また1名の職員が2~3名を担当して密な観察、意向把握がおこなわれています。更新時には「気づきシート」の項目毎に記入していくことでモニタリングにも叶い、シートはサービス担当者会議でも使用して情報共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、日報、申し送りノートなどでユニット職員は情報を共有し、会議の場で話し合い介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画は基本行動の指針であり、日々変わるご本人様や家族の要望によりサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームに隣接する浜名湖沿いを散歩することで季節を感じ、自身の生まれ育った地域の良さを感じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は往診にて対応しているが、希望者にはご家族と協力し様々な病院への受診を行っている。市内の病院、医院とは信頼関係が築けている。	協力医とは別の医院に月1回の訪問診療をお願いしており、従来からのかかりつけ医を継続する利用者は4名のみで、他は訪問診療の医師に変更しています。法人配属の看護師の他、介護支援専門員も看護師資格をもち、医療面でのリスクが軽減しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師申し送りノートを通じての情報共有や依頼を基本としているが、職員が直接看護師に相談できる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内、隣接市の病院の医療連携室とは定期的な訪問や電話でのやり取りにて良好な関係を築けており、迅速に対応して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やその後の方向性については十分に説明させていただいており、どの状態になっても対応可能な様に、社内他施設や地域の施設、病院と連携できている。	本件にかかる法人研修が年1回あり、所内でも兆候が見られたら随時、話し合いをもっています。利用者、家族の意向に副って取組む方針ですが、現状医療施設への移転となることが大半のため、退所となっても最期まで支援する姿勢を以て対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応の研修は定期的に行っているが、加えて市の消防署が実施している出前講座を依頼し、救急隊員により指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害については運営推進会議の議題にもっとも上がる議題であり、地域の方とも避難の想定をしている。今後近隣の他施設とも連携することで話が進んでいる。	地域の訓練にも利用者とともに参加し、年2回の法定訓練をおこなっています。また強風被害もあり得る立地の為、物干し竿を手早く倒しておいたり、事業所外にある自動販売機の空き缶入れを片付けたりと、職員には対策が身につけています。備蓄も10日分と潤沢です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの研修も定期的に行われているが、それは基本に留まっているため、管理者やリーダーにより指導を行っている。	食材の皮むき、下膳や食器の拭き上げ等出来ることは手伝ってもらい、有用感を高めるとともに生活リハビリを進めています。訪問時にはお茶を出してくれたり、「コーヒーには砂糖が入りますか？」などと尋ねてくれる様子からも普段の支援の充実が伝わります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特段の事情や行事などが無い場合はご本人様の過ごし方の希望を最大限尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様は好き好きにフロアや自身の居室で過ごされている。個人のおやつは沢山用意されており食べたい時に食べたりできる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めを職員がおこなったり、ひげの手入れをしたりとご本人様の希望に沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	白米が嫌いな方はパン、お茶が嫌いな方はジュースなど好みに合わせて提供している。出来る範囲の手伝いを能力に合わせてして頂いている。	食事ができることを大切にしている、「米が嫌」なら「パンを」、「お茶がダメ」なら「ジュースを」と、先ずは取り込んでもらうことを念頭においています。外食も楽しみの一つで、シラス丼、ファミレス、回転寿司、ラーメン屋などに出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表を活用しているが、囚われることなくご本人の希望を最優先している。白米を食べない方にパンを提供するなど個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様の習慣や状態を鑑みながら、出来る支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの定期誘導の他、ご本人様の行動やしぐさに気を配り、排泄のサインを見逃さない様にしている。	本人の意向からリハパンにパッドを入れ、自身で後始末をしている人がいたり、移動の度にトイレへ誘う声かけをし、頻度を増やすことで失禁の回数が減った人もいて、本人本位の自立を推進していることが確認されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を把握し水分量などに気を配っている。適切な服薬管理も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一定の順番にて回数の確保をしているが、希望者には希望の入浴方法をとっている。	湯の入れ替えと浴槽清掃を1名毎におこない、清潔を保っています。また見学時にも良い香りが漂い、浴室内に窓がない造りの為カビなどにも十分留意しています。週2~3回の入浴を目安としていますが、現在「夕食後に入りたい」という要望にも職員配慮を厚くして応えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本はご本人の意思を尊重しており、寝たい時、休みたい時に横になれる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できるようにフロア内に配薬確認票をはり、随時確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいことをやれる事、誰かの役に立てる事などを考え、皆で草取りをしたり、畑の収穫をしたりするなど与えるだけにならない支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の回数は非常に多くあり、毎日誰かが外出している。外食や遠足などの集団での外出から特定の希望者のドライブ、買い物、墓参りなど個々にも出かけている。	事業所横にある畑での作業での外気浴の他、午後2時~4時、5時までを外出タイムとして、遠くは鷺津公園(約2.5km)まで散策したこともあります。またユニットごとに初詣やバラ園の花見に出かけ、先月のフラワーパークまでの遠足には利用者が仲間の車いすを押す姿もありました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブや外出時に出来る方には支払いをして頂いたり、ご家族の来訪時におこづかいを渡したい入居者様に事前にお金を持っていたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者の手紙の投函や切手の購入などの支援。もちろんホームの固定電話にて希望者はいつでも電話をすることが可能。携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や写真など季節により貼り換え、季節感を出している。出来るだけ外の自然な空気を入れるようにしている。	テレビに向かってL字型にソファが設置され、また広くて長い廊下の先の窓脇には休憩できる一角があり、居場所づくりへの配慮が伝わります。また「今月の健康体操」と記された掲示には、開催の日時が告知され、思い出写真には利用者の満開の笑顔が幾つも並んでいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段フロアにて過ごされる席は相性の合う方になる様にきを配っている。ソファをフロアの隅に配し一人で過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来る限り使い慣れたものやご本人様のお気に入りの物をお持ちいただけるようお願いしている。	居室入口には名前とともに思い出写真が掲示されていて、自分の部屋が判断しやすくなっています。壁掛けハンガーにお洒落な帽子を掛けてあったり、馴染んだミン台を置いたり、鏡台の上に充電中の携帯があったりと、その人らしく暮らしていることが感じ取れる居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前を掲げることの他、自身の写真を貼って自身の居室が混乱なくわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400041		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム湖西		
所在地	静岡県湖西市鷺津2522-33		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町村受理日	平成30年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&jiyosyoCd=2298400041-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から7年を経過し、定着した職員により安定したホーム運営が出来ております。入居者様の希望に沿って出掛けたい時などにすぐに反応できるようになってきています。畑作業や普段のお手伝いを通じ出来る限り体を動かして頂く事で昨年度は骨折による入院者は一人もいられませんでした。ホームのお祭りへの参加者も年々増えており地域からの認識もすすんできています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

湖西高校のボート小屋の南に位置し、浜名湖を一望する見晴らしの良い場所に在ります。普段から畑仕事等で身体を動かして、昨年は骨折事故も無く、インフルエンザをはじめとする感染症の罹患はゼロでした。恒例行事である秋祭りは毎年地域から100名余の集客があり、また湖西市内では「初」となる共用デイ始まり、理念である「地域の人々との触れ合い～」に通いの利用者との関わりが重なるものとして、相乗効果が大いに期待されます。一三三だよりを利用者の暮らしの機微や介護の詳細を入れていったところ家族から「よくなって助かる」との声が届き、「ホーム学童化計画」も徐々に進み、現状に満足しないチャレンジに溢れる

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人々との触れ合いを大切にします。との文言が運営理念に掲げてあり、スタッフ一同が地域の中でのホームのあり方を会議等で確認し、行事などにおいて実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、町内会には事業所として所属しており、自治会や町内会の行事には参加させて頂いている。また、回覧板などをホームの行事にも利用させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	湖西市内の民生委員が何度か見学に来られ、認知症介護の実情などをホームより発信し、各民生委員が担当地域の方々へ伝えて下さっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会や町内からは多くの協力を得ることが出来ています。運営推進会議の場において協力をお願いしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への行政の参加は毎回です。行政担当者とは共用デイの相談などで密に連絡をとれています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全社を挙げての取り組みでもありますが、当ホームにても研修による知識の蓄積を基礎に実践として拘束ゼロを実現しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても全社的取組であり、チェック項目にしたがい定期的にチェック・注意喚起を行っている。現場にて各ユニットのリーダーがスタッフ個々のチェックを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者様も数人おり、後見人などから実際の制度や手続きを学ぶことが出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や改定の案内などは、必ず管理者が時間をかけて読み合わせを行ないながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内のご家族様アンケート、介護相談員の評価、運営推進会議での意見などにて頂いた要望などをフィードバックし改善や改良を行なっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社にてはスタッフアンケートが行われており、その結果は管理者に知らされ改善策の提起を求められている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスや段位制度等が毎年充実してきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のブログを通じての研修の配信や書面による資料が定期的に配られる。また、資格支援制度も毎年充実してきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖西市のグループホーム管理者が独自に集まり、地域密着部会を開催し情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人様の面接ではアセスメントを取ると共に入居後の希望をしっかり伺い、ケアプランへと反映させている。必要な場合は何度も居宅や病院などを訪問している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様と同様に見学の段階から、入居後の生活の様子を説明し、希望を聞き入れることはもちろんの事、協力頂きたいことは最初から要請するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護度や医療依存度の高低に囚われることなくその後のご本人様の人生に最適な選択を話し合う様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の念や労いの心は残しつつ、お客さんの立場に留めることなく、生活を共にしている。畑作業や草取りの外仕事、洗濯や食事の準備、後片付けを一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出もご本人様の気持ちを踏まえつつ、職員のみではなく、ご家族にご負担頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短歌を趣味とされる入居者様がホームに月に一度程お友達を呼ばれ、ホーム相談室にて短歌の会を行なっています。墓参りなども定期的にお連れしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いなどは役割分担が入居者様の中で出来ており、その関係を壊さない様に職員は陰ながらのサポートを心がけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には必ず、その後の進路を確保し状況によっての対処をアドバイスしている。また、退去して数年経過した方の様子も定期的に訪問して伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員本位でないケアを行なえるよう職員会議やユニットの会議では話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのセンター方式の提供や入居後からのご本人や家族の話をフェイスシート(デビット君)に記入し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	やれることは自身でという事を基本に考え、支援を行っており、現状の個々の能力は把握しやすい状況にある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現状の把握と状態の家族との共有には気を配り、見当違いの支援にならない様になっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、日報、申し送りノートなどでユニット職員は情報を共有し、会議の場で話し合い介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画は基本行動の指針であり、日々変わるご本人様や家族の要望によりサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームに隣接する浜名湖沿いを散歩することで季節を感じ、自身の生まれ育った地域の良さを感じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は往診にて対応しているが、希望者にはご家族と協力し様々な病院への受診を行っている。市内の病院、医院とは信頼関係が築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師申し送りノートを通じての情報共有や依頼を基本としているが、職員が直接看護師に相談できる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内、隣接市の病院の医療連携室とは定期的な訪問や電話でのやり取りにて良好な関係を築けており、迅速に対応して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やその後の方向性については十分に説明させていただいており、どの状態になっても対応可能な様に、車内他施設や地域の施設、病院と連携できている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応の研修は定期的に行っているが、加えて市の消防署が実施している出前講座を依頼し、救急隊員により指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害については運営推進会議の議題にもっとも上がる議題であり、地域の方とも避難の想定をしている。今後近隣の多施設とも連携することで話が進んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの研修も定期的に行われているが、それは基本に留まっているため、管理者やリーダーにより指導を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特段の事情や行事などがない場合はご本人様の過ごし方の希望を最大限尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様は好き好きにフロアや自身の居室で過ごされている。個人のおやつは沢山用意されており食べたい時に食べたりできる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めを職員がおこなったり、ひげの手入れをしたりとご本人様の希望に沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	白米が嫌いな方はパン、お茶が嫌いな方はジュースなど好みに合わせて提供している。出来る範囲の手伝いを能力に合わせてして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表を活用しているが、囚われることなくご本人の希望を最優先している。白米を食べない方にパンを提供するなど個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様の習慣や状態を鑑みながら、出来る支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの定期誘導の他、ご本人様の行動やしぐさに気を配り、排泄のサインを見逃さない様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を把握し水分量などに気を配っている。適切な服薬管理も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一定の順番にて回数の確保をしているが、希望者には希望の入浴方法をとっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本はご本人の意思を尊重しており、寝たい時、休みたい時に横になれる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できるようにフロア内に配薬確認票をはり、随時確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいことをやれる事、誰かの役に立てる事などを考え、皆で草取りをしたり、畑の収穫をしたりするなど与えるだけにならない支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の回数は非常に多くあり、毎日誰かが外出している。外食や遠足などの集団での外出から特定の希望者のドライブ、買い物、墓参りなど個々にも出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブや外出時に出来る方には支払いをして頂いたり、ご家族の来訪時におこづかいを渡したい入居者様に事前にお金を持っていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者の手紙の投函や切手の購入などの支援。もちろんホームの固定電話にて希望者はいつでも電話をすることが可能。携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や写真など季節により貼り換え、季節感を出している。出来るだけ外の自然な空気を入れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段フロアにて過ごされる席は相性の合う方になる様にきを配っている。ソファをフロアの隅に配し一人で過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来る限り使い慣れたものやご本人様のお気に入りの物をお持ちいただけるようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前を掲げることの他、自身の写真を貼って自身の居室が混乱なくわかるようにしている。		